

めぐみイエス・キリスト教会

2021年4月18日(日)第Ⅲ主日礼拝
週報「通算第553号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌376「いかに汚れたる」 p. 604

【交読文】 No.6 詩篇第22篇 p. 883

【賛美Ⅱ】 新聖歌127「墓の中に」 p. 178

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.11「ラザロ」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書21章1節～8節(新約p. 229)

【礼拝説教】 《ガリラヤ湖にて(八日目後の出来事)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書21章1節～8節】

21:1 その後、イエスはティベリア湖畔で、再び弟子たちにご自分を現された。現された次第はこうであった。

21:2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれるトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子たち、そして、他に二人の弟子が同じところにいた。

21:3 シモン・ペテロが彼らに「私は漁に行く」と言った。すると、彼らは「私たちも一緒に行く」と言った。彼らは出て行って、小舟に乗り込んだが、その夜は何も捕れなかった。

21:4 夜が明け始めていたころ、イエスは岸辺に立たれた。けれども弟子たちには、イエスであることが分からなかった。

21:5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ、食べる魚がありません

んね。」彼らは答えた。「ありません。」

21:6 イエスは彼らに言われた。「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れます。」そこで、彼らは網を打った。すると、おびただしい数の魚のために、もはや彼らには網を引き上げることができなかった。

21:7 それで、イエスが愛されたあの弟子が、ペテロに「主だ」と言った。シモン・ペテロは「主だ」と聞くと、裸に近かったので上着をまとい、湖に飛び込んだ。

21:8 一方、他の弟子たちは、魚の入った網を引いて小舟で戻って行った。陸地から遠くなく、二百ペキスほどの距離だったからである。

●ポイント1. ガリラヤの集合場所とは？

※マタイの福音書28章16節～17節「指示された山で」 (新約p.64下段)

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行きイエスが指示された山に登った。そして、イエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。

●ポイント2. 同じような出来事の再現とは？

※ルカの福音書5章3節～9節「公生涯の始めの頃に」 (新約p.177下段)

●ポイント3. 主イエスの約束とは？

※マタイの福音書6章31節～33節「山上の垂訓から」 (新約p.11上段)

6:31「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。

6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

※マタイの福音書16章24節「自分の十字架を背負って」 (新約p.34上段)

24 それからイエスは弟子たちに言われた。「誰でも私について来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従って来なさい。」

◎先週のメッセージの概要【復活から一週間後の出来事】

《ゲッセマネに向かう時に、主イエスは弟子たちに言われました。「私は、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」と。

そして、三日目の早朝に、主イエスはよみがえります。主はマグダラのマリアと女たちに現れて、弟子たちへの伝言を伝えます。「行って、私の兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこで私に会えます」と。

十二弟子の一人で、デドモと呼ばれたトマスは、主イエスが来られた時、彼らと一緒にはいませんでした。考えられる理由の一つとして、トマスは、あえてベタニアに残ったのではないのでしょうか。エルサレムに戻ったトマスに人々が、「私たちは主を見た」と証しします。それを聞いたトマスはいじけてしまいます。トマスは、主の命令を、直接聞いています。女たちの伝言も聞いています。ガリラヤに行けば必ず会えるのですから、エルサレムを出発すべきです。しかし、トマスはそこを動こうとはしません。

そして一週間後、同じ状況下の中に、主イエスが突然やって来ます。「平安があなたがたにあるように。あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。」「私の主、私の神よ。」

なぜ主イエスはトマスが不在の時に現われたのでしょうか。それには、神様の深い摂理があったと思われるのです。特に主がトマスに語られた言葉こそ、現在の私たちにも向けて、語られたのではないのでしょうか。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。あなたは私を見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」へブル書は、『信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いて下さる方であることを、信じなければならぬのです。』と勧め、シモン・ペテロは、『あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、今見てはいないけれども信じており、言葉に尽くせない、栄えに満ちた喜びに躍っています。』と勧めます。私たちは、真に「見ないで信じる幸いな者」たちなのです。》

◎お知らせ

※次回は4月25日(日)教会にて、通常通りの時間で行ないます。聖書勉強会・祈り会は4月21日(水)各家庭にて行ないます。